



年頭にあたって



高山村長
後藤 幸三

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は公私ともにひとかたならぬご指導とご鞭撻を賜り、また、日頃より村政全般にわたりご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

昨年3月には今後10年間の高山村の道しるべとなる、第6次総合計画を策定いたしました。高山村の将来像を「つどい・つむぎ・つなぐ村 たかやま」と定めました。行政だけでは解決が困難な課題に対応するため、村民の皆さまや多様な関係者との協働を重視し、地域の魅力を一層引き出す道筋を示すものです。村民・職員の双方が当事者意識を持つて実行していくことで、小さくとも輝いていく高山村を築けるものと確信しております。総合計画に掲げる施策

を着実に推進し、住む人、訪れる人、支え合う人々が、互いに「つどい」、地域の力を「つむぎ」、そして将来へと「つなげていく」高山村を目指してまいります。

高山村の主要産業である、農業関係では令和6年2月に有機農業への取り組みを推進するため「オーガニックビレッジ」宣言をいたしました。また、同年12月には、構造改革特別区域として「ワイン特区」の認定を受けております。果実酒の最低製造数量が6キロリットルであるところを2キロリットルに緩和されるもので、既に昨年地域おこし協力隊を卒業された方がワイナリーの設立に向けて取り組んでおられます。

昨年3月には、念願であった高山きゅうりの「GI登録」がなされました。地域ならではの要因と結びついた特性を有する産品について、農林水産大臣が登録し保護する制度で、群馬県では初めてのことであります。これらを契機として、農産物のブランド化、学校給食での活用、農産物直売所での販売に加え販路の拡大にも努めてまいります。それと同時に、慣行農業の更なる推進にも力を入れ、単一作物の効率的・安定的な大量生産を

図ることにより、農業の更なる活性化を図ってまいりたいと考えております。

さて、村民皆さまから大変ご心配していただいている役場庁舎については、日々の業務もさることながら、万一災害が発生した時には、災害対策の拠点として、また災害がやんだ後には被災者支援、復興の拠点として機能しなければなりません。平成29年の耐震診断の結果、耐震性能が著しく低いとされた役場庁舎については、早急な整備が必要と考えておりますので、民意を踏まえながら多角的に検討してまいりたいと考えております。併せて、少子高齢化が進行している現状を踏まえ、小・中学校を統合し義務教育学校とすることも検討してまいらなければなりません。

引き続き、誰もが輝ける高山村の実現に向け努力してまいりますので、今後とも皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。次第でございます。

結びに、令和8年が村民皆さまにとって明るく希望に満ちた年となりますようご祈念申し上げます。年頭にあたったの挨拶とさせていただきます。



新年のごあいさつ



高山村議会議長
後藤 明宏

新年あけましておめでとうございませう。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

村民皆さまには、令和8年の新春を御家族お揃いで健やかに迎えのことと存じます。

旧年中は議会活動につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内では物価の高騰等、私達の生活に直接関わってくる問題が山積する中、夏の猛暑を起因とする山の木の木の生育不良により、住宅街への熊の出没等新たな問

題が発生し、早急な対応が求められております。

世界に目を向けますと、世界規模の異常気象等の自然災害は、各国に甚大な被害をもたらしております。

高山村においては、役場庁舎およびふれあいプラザの整備に関する住民説明会を1月23日から2月9日まで計13回開催し、延べ347人が参加され、皆さまから忌憚のない貴重なお意見を拝聴できました。議会としても引き続き村民皆さまの声を聴きながら、これからの人口減少を見据え、必要最小限の庁舎整備を検討いたします。

また、3月18日には「高山きゅうり」が群馬県で初となる地理的表示(GI)産品登録されました。このGI登録は、農林水産省が、その地域ならではの自然的、人文的、社会的な要因・環境の中で育まれてきた品質、社会的評価等を有する農林水産物・食品の名称を、その地域における知的財産として保護するものです。「高山きゅうり」の

GI登録により、村の主要産業である農業の活性化が図られることを強く望んでおります。

結びに「1人1人が次世代を想い100年先も住みたい持続可能な村に【たからのやまたかやま】を目指し、議会一同一丸となって村政に取り組んでまいります。

村民皆さまにとって本年がより良い年になりますよう、ご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。





年頭にあたつて



高山村教育委員会 教育長

山口 廣

新年あけましておめでとうございます。

新春を迎え、村民の皆さまに心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、高山村の教育・文化・スポーツの振興に温かいご理解とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年は、私たちの郷土の歴史と文化を改めて感じる出来事がありました。中山原遺跡から貴重な出土品が発掘され、長い歴史を受け継ぐこの村の魅力を再確認する機会となりました。村文化祭では、その出土品が展示され、多くの皆さんが見学され

ました。子どもたちも興味深く見入っており、郷土の歴史を学ぶ良い教材となりました。地域の文化を次代へと伝える意義を改めて感じることができた1年でした。

スポーツの分野でも活躍がありました。郡民スポーツ大会では、バドミントンが3年連続で優勝、剣道も優勝しました。陸上競技100m走でも1位になる選手もいました。また、ボウリングが準優勝、グラウンドゴルフが3位、バレーボールも男女ともに3位という素晴らしい成績を収めました。競技を通して培われた仲間との絆や努力の積み重ねが、村全体に元氣と感動を届けてくれました。

学校教育においても、子どもたちが生き生きと学び、互いを認め合う温かな教育活動が進められました。地域の方々に支えられた体験学習や、ICTを活用した新しい学びなど、未来を見据えた教育実践が着実に広がっています。子どもたちが「自ら考え、共に学び、心豊かに成長する」ことを目指し、学校・家庭・地域が一体となった教育を

さらに推進してまいります。

昨年4月には、姉妹校であるシドニーのトーマス・ハッサール校で日本語を学習している生徒13人が来村しました。生徒はホームステイをしながら中学生と交流したり、ホストファミリーと日本文化に触れたりしました。8月には、本校の中学2年生をオーストラリア・シドニーに派遣しました。現地ではトーマス・ハッサール校を訪問し、現地の生徒たちと積極的に交流活動を行いました。また、ホームステイを通して現地の家庭生活を体験し、異文化理解と英語力の向上を図る貴重な研修となりました。報告書には、また行きたいとの感想が多くみられ、海外派遣のねらいが達成できたのではないかと考えています。

結びに、今年も皆さまのご支援とご協力を賜りながら教育活動を充実させていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

本年が村民の皆さまにとって幸せに満ち、充実した年となりますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。